

第 6 4 期

事 業 報 告 書
令和4年（2022年）度

自 2022年4月1日
至 2023年3月31日

公益財団法人中外創薬科学財団

第 64 期令和 4 年(2022 年)度 公益財団法人 中外創薬科学財団事業報告

I. 事業概要

昭和 35 年(1960 年)12 月に文部大臣により財団法人として設立が認可された「東京生化学研究会」は、平成 22 年(2010 年)9 月に公益財団法人に移行し、平成 31 年(2019 年)4 月に一般社団法人 中外 Oncology 学術振興会議と合併を行い、令和 4 年(2022 年)4 月に「公益財団法人 中外創薬科学財団」に改称し、活動を行っている。事業内容についてもこれまでの事業を更に発展させる目的で、内閣府に事業内容の変更申請を行い、令和 3 年(2021 年)12 月に承認された。

事業内容変更の承認後初年度となる令和 4 年(2022 年)度は、定款第 3 条「創薬並びに薬物治療に関する基礎から臨床にわたる研究を助成・奨励し、かつ研究者の育成及び研究活動の国際交流の推進に努めることにより、この分野における研究の振興を図ることにより、広く人類の健康と福祉に寄与することを目的とする。」及び定款第 5 条に定めた記載に則り、事業計画の策定を行い実施した。

令和 4 年(2022 年)度の事業全般としては、COVID-19 感染の終息がみられないことから、対面によるフォーラム開催等の一部の事業において計画通り実施することはできなかったが、オンラインによる WEB 開催などデジタルの活用により、ほぼ予定通り事業を実施することができた。

1. 令和 4 年(2022 年)度事業内容

1) 褒章事業

① 石館・上野賞 (定款第 5 条第 1 項第 1 号)

生命科学研究・創薬科学研究或いは臨床研究において独創的発見・発明を行い、かつそれを基盤として将来も画期的成果をあげる事が期待される若手研究者 1 名の表彰を行う褒賞事業として令和 4 年(2022 年)度に創設した第 1 回石館・上野賞は、増田隆博先生(九州大学大学院薬学研究科 薬理学分野 准教授)の研究テーマ「脳内マクロファージの統合的理解と研究基盤創出」が受賞した。なお、授賞式及び受賞記念講演会は 11 月 21 日に六本木アカデミーヒルズにて JCA-永山賞と合同で開催した。

[褒賞金] 500 万円 他にトロフィー及び賞状の授与

② JCA-永山賞 (定款第 5 条第 1 項第 1 号)

本財団と日本癌学会が共同で 2011 年に創設された日本癌学会学術賞のひとつとして、「日本発の新たな抗がん剤・治療法に関する研究・開発を行い、がん医療の発展に多大に貢献する成果物を創出した個人又はグループに対してその功績を称え、今後のがん研究の一層の振興を図る」ことを目的に表彰を行っており、令和 4 年(2022 年)度第 12 回 JCA-永山賞は、西川博嘉先生・小山正平先生・前田優香先生(国立がん研究センター研究所)のグループの研究テーマ「がん免疫療法の精密医療実現に向けた腫瘍微小環境解析技術の開発と臨床応用」が受賞した。授賞式は 10 月 1 日にパシフィコ横浜で開催された第 81 回日本癌学会学術総会にて行われ、受賞記念講演会は 11 月 21 日に六本木アカデミーヒルズにて石館・上野賞と合同で開催した。

[褒賞金] 200 万円 他にトロフィー及び賞状の授与

2) 助成事業

③ 研究助成金 A (定款第 5 条第 1 項第 2 号)

令和 3 年(2021 年)度に採択した 12 件に対し、2 年目の助成金を贈呈した。(令和 3 年度の募集で研究助成金 A は終了)

[助成金額] 総額 24,000 千円 (1 件 2,000 千円 12 件)

④ 研究助成金 I (定款第 5 条第 1 項第 2 号)

創薬並びに薬物治療に関する基礎あるいは応用研究に関して、注目すべき革新的業績をあげている研究者に対し、以下の 4 つの応募区分の研究テーマより募集を行い、令和 4 年(2022 年)度は、10 件に研究助成金 I を贈呈した。

(i) 化学あるいは物理学を基盤とした創薬及び創薬関連研究

(ii) 生物学あるいは基礎医学を基盤とした基礎及び応用研究

(iii) 臨床医学を基盤とした研究

(iv) がんに関する基礎及び応用研究

[助成金額] 総額 20,000 千円(1 件 4,000 千円を 2 回分割交付 ; 1 件 2,000 千円/年を 10 件中 9 件に交付。1 件は令和 5 年 4 月に交付のため未払計上)

⑤ 研究助成金 II (定款第 5 条第 1 項第 2 号)

創薬並びに薬物治療に関する基礎あるいは応用研究において、画期的成果をあげておりさらに意欲的に研究に取り組む研究者に対し、研究助成金 I で定めた応募区分の研究テーマに対する募集を行い、原則 45 歳以下の若手研究者 18 名に助成金 II を贈呈した。

[助成金額] 総額 27,000 千円 (1 件 1,500 千円を 18 件)

⑥ 特別研究助成金 SRG2021 (定款第 5 条第 1 項第 2 号)

令和 3 年(2021 年)度に研究テーマ「ウイルス性感染症 and/or がん」に採択された 5 件(1 件 6,000 千円を初年度 3,000 千円、第 2 年度 3,000 千円に分けて贈呈)に対して、2 年目の贈呈を行った。なお、助成金の 15,000 千円については特定費用準備資金より拠出した。

[助成金額] 総額 15,000 千円 (第 2 年度 1 件 3,000 千円を 5 件)

⑦ 特別研究助成金 SRG2022 (定款第 5 条第 1 項第 2 号)

令和 4 年(2022 年)度より開始され「申請時点から遡って 2 年以内に独立して新たに研究室を立ち上げた研究者、あるいは近い将来立ち上げることが確約されている研究者の中から 7 件(1 件 2,000 千円)に贈呈を行った。なお、助成金の 14,000 千円については特定費用準備資金より拠出した。

[助成金額] 総額 14,000 千円 (1 件 2,000 千円を 7 件)

⑧ アジア地域招聘国際共同研究助成金

わが国とアジア地域の研究者による薬物治療並びに新医薬品の創製に関する共同研究を助成する目的で、アジア地域より若い研究者をわが国の大学・研究機関に招聘し、1~2年間滞在費その他を支給するとともに、受入研究者に研究助成金を贈呈した。令和 3 年(2021 年)度までに受領者として採択されていたが、COVID-19 の感染拡大により入国が制限されていた受領者の中で、令和 4 年度に入国が可能となった 10 名及び新規受領者 6 名、合計 16 名の招聘研究者及び受入れ研究者に助成金を贈呈した。

[助成金額] 総額 75,802 千円 16 件 (継続 10 件、新規 6 件)

[助成金内訳]

- イ) 招聘研究者：滞在費月額320千円（住宅手当含む）、往復航空券（実費）、渡日一時金200千円、家族手当50千円、海外旅行保険料年額約200千円等
- ロ) 受入研究者：共同研究助成金 1,500千円（年額）

⑨ **国際交流研究助成金：令和5年度より贈呈開始**（定款第5条第1項第3号）

諸外国より若手研究者を日本の大学・研究機関に招聘し、日本と諸外国の若手研究者による創薬並びに薬物治療に関する共同研究を助成する事を目的として、最長2年間の滞在費（320千円/月）及び渡航費用を贈呈するとともに、受入研究者に研究助成金（年間1,500千円）を贈呈について募集を行い、令和4年（2022年）度は受領者4件を採択した。贈呈は令和5年（2023年）度に行う。

⑩ **海外留学助成金**（定款第5条第1項第4号）

日本の若い研究者に対し海外で創薬並びに薬物治療に関する研究を行い、研究のグローバル化を促進する目的で、海外留学における滞在費及び渡航費用の補助として、1年以上の海外留学予定者に対し最長2年間で限度に助成する海外留学助成金の募集を2回（第1期、第2期）行い、令和4年（2022年）度は受領者4名を決定した。

[助成金額] 総額19,148千円（1年目の助成金4,500千円/件のうち3件分及び渡航費2名分を交付。1件は令和5年7月に交付のため未払計上。）

⑪ **海外派遣補助金**（定款第5条第1項第5号）

海外で開催される創薬並びに薬物治療に関する国際会議への研究者の派遣に関して、渡航費及び滞在費などの経費を補助をする募集を行ったが、令和4年（2022年）度はCOVID-19の感染拡大により申請がなかった。

⑫ **海外招聘補助金**（定款第5条第1項第5号）

日本国内で開催される創薬並びに薬物治療に関する国際会議への研究者の招聘に関して旅費及び滞在費等の経費を補助する募集を前半期、後半期の年2回に分けて行った。令和4年（2022年）度は、前・後半期併せて6件が採択されたが、COVID-19の感染拡大により2件が辞退となり最終的には4件に贈呈した。

[助成金額] 総額1,700千円（前半期の2件が辞退、後半期4件に贈呈）

⑬ **学術団体への海外招聘補助金**（定款第5条第1項第5号）

日本癌学会学術総会並びに日本臨床腫瘍学会学術集会は、日本が、がん研究・がん治療の拠点になることを目的に、将来が期待される諸外国の若手研究者を対象に学会への参加、研究成果の発表を促進する支援事業（トラベルグラント、トラベルアワード）を行っており、これらの事業に対し助成を行った。

[助成金額] 総額3,750千円（日本癌学会2,250千円、日本臨床腫瘍学会1,500千円）

[助成学術集会概要]

- イ) 第81回日本癌学会学術総会：2022年9月29日 - 10月1日（パシフィコ横浜）
- ロ) 第20回日本臨床腫瘍学会学術集会 2023年3月16-18日（福岡国際会議場/マリメッセ福岡）

⑭ 奨学金（定款第5条第1項第6号）

若手研究者の育成を目的に、日本の大学等研究機関において、創薬並びに薬物治療に関する研究に真摯に取り組む大学院生若しくは大学院研究生を対象として、令和3年（2021年）度の採択された12名に対し奨学金（1件70千円/月）を贈呈した。令和4年（2022年）度に採択された10名中1名より採択通知後に辞退があり、令和5年（2023年）度は9名に贈呈する。

[助成金額] 総額9,660千円*（12件、月額70千円、年額840千円）*1名半年辞退)

⑮ 臨床腫瘍学教育プログラム派遣（定款第5条第1項第8号）

国内のがん領域の原則、40歳以下の若手の基礎研究者、臨床研究者及びがん専門医を派遣し、臨床腫瘍学の最新情報の習得並びに国際的なネットワーク作りの機会を提供する目的で、米国で開催される臨床腫瘍学教育プログラム(STOFF)派遣者3名を採択し、受講料(10,000米ドル/件)及び往復の渡航費を財団が負担しており、令和4年（2022年）度は令和3年（2021年）度にCOVID-19の感染拡大により派遣が延期となっていた3名を派遣した。

[助成金額] 総額7,001千円（3名、受講料及び往復の旅費）

3) フォーラム事業

⑯ 国際がんフォーラム IAAO 2022（定款第5条第1項第7号）

日本のがん研究、がん治療の向上を目的にがん研究領域の国内外の世界トップレベルの研究者・オピニオンリーダーを講演者として招聘し、国際がんフォーラム(IAAO)を日本にて開催しており、令和4年（2022年）度は演者14名並びに一般聴講者として日本の最先端のがん研究・治療を担う基礎研究者及びがん専門医182名、公募により選定された40歳以下の若手研究者8名を加え、総数200名を超える参加者のもと開催した。開催形式については当初は対面形式を予定していたが、開催直前にCOVID-19の感染拡大によりオンラインによるWEB開催となった。

[開催費用] 総額65,679千円

⑰ フォーカスシンポジウムの開催（定款第5条第1項第7号）

地方大学、大学病院、がん診療拠点病院、研究所などにおける、がんの基礎・臨床研究の向上、さらには地方での標準治療の普及促進を目的に、世界の最新のがん研究・治療にフォーカスした講演会の開催並びに講師派遣等の支援を行っており、令和4年（2022年）度は、令和5年3月31日に北海道大学遺伝子病制御研究所にて研究者及び大学院生など15名が参加し、「Oncology Satellite Forum in Hokkaido」を開催した。

⑱ 助成研究報告会の開催（定款第5条第1項第7号）

研究助成金、特別研究助成金、国際交流研究助成金、海外留学助成金のそれぞれの受領者による成果発表を行い、研究者同士並びに財団関係者間の交流・親睦を図っており、令和4年（2022年）度は2023年3月3日に野村コンファレンスプラザにて口頭発表13題、ポスター発表45題で開催。一般聴講者を含めて92名の参加があった。

[開催費用] 総額7,320千円

4) 教育資材・資料の刊行

⑱ 抗腫瘍薬一覧表・ポケット版の刊行

厚生労働省の承認を受けた抗がん剤の商品名、一般名、適応症、副作用を専門医の監修のもと簡潔にまとめた「抗腫瘍薬一覧表 2022 年度版」及び携帯用の「抗腫瘍薬一覧表 2022 年度ポケット版」を7月に刊行し、希望者に無償提供を行った。

⑳ IAAO2021 記録集の刊行

国際がんフォーラム 2021 の記録集(Proceedings of IAAO 2021)を7月に刊行し、IAAO2021・2022 参加者及び希望者に無償提供を行った。

㉑ 助成研究報告集の刊行

2021年度版の助成研究報告集を刊行し、助成研究報告者、本財団理事・評議員・選考委員、他公益財団などに無償提供を行った。

2. 事業報告付属明細書

令和4年(2022年)度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する状様な事項」に該当するものがないので作成しない。